

## 2012 年度 入学 試験 問題

# 世界史 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

ローマ帝国の領土は最盛期において、アジア・アフリカ・ヨーロッパにまたがり、地中海を内海としていた。そしてこの巨大な帝国には、5000万から6000万の人々が住んでいたと推定されている。首都の人口はなかでもとびぬけて多く、100万以上の人々が暮らしていた。この首都には  川が流れていて、この川を越えようとする人々にとっては重要な渡河地点でもあった。

北からこの都市を目指す場合には、フラミア街道に入り一気に南下することになる。そこから城壁を通過して、「永遠の都」の内側へと入っていく。するとそこには、それまでの殺伐とした自然の風景に代わって、人工的な享楽都市の景観がひろがっていた。

狭い門を通り抜け、巨大な広場を真っ直ぐに進むと、やがて小高い丘陵地帯がいくつも見えてくる。古代ローマにはこのような丘が7つあったといわれている。こうした一帯にたいして、前7世紀末にこの地を支配した  人は強い畏怖の念を抱いていた。それゆえそこには彼らの信じた神々が祭られ、卜占などの儀式がおこなわれた。こうした考え方は、後にここに住むことになるローマ人にも受け入れられていく。というのも、同じ場所にやがてローマ人たちによって長く信奉される多くの対象物が祭られていくことになるからである。この傾向は都市の拡大・住民の増大とともにますます顕著となり、丘の上には神の肖像、祭壇、円柱などがつぎつぎに築かれていった。やがて、亡くなった英雄たちや統治した皇帝たちもその一員となり、壮大な 神殿が町やそこに住む人々を見おろすようになってくる。

① なかでもひときわ目立つのがカピトリアヌスの丘のユピテル神殿であった。「ユピテル」とは、ギリシアの大神ゼウスのローマでの呼称である。この巨大な建築物の隣には彼の妻であるヘラが、「ユノ」と名前を変えて鎮座していた。彼女の住まうユノ・モネタ神殿の近くに貨幣鑄造所があったことから「モネタ」が貨幣を意味するようになり、のちの「マネー」という言葉へと引き継がれたといわれている。貨幣の鑄造をすすめて、領域内では共通した通貨を使用させ、これを交易に利用したため、帝国の経済活動は活発になり、その首都にはますます多くの富が集中することになる。

集められて来たのは、ギリシア由来の神々や周辺で収穫された海産物や農産物だけ

ではない。エジプトなどの遠方から運ばれてきた多くの戦利品やオベリスク、イベリア半島からもたらされた鉱産物などもこの都の風景を飾っていた。

このように多くの神々や聖遺物は名称や機能こそ変化を遂げたが、地中海をわたってイタリア半島に搬送され、そこに定着することで、その姿を後世に残すことになる。アグリッパが建立し、後に火事で焼失、120年から125年にかけて再建されることになった **C** と呼ばれている神殿は、そうした当時のローマ人の自然や世界に対する考え方の象徴であったといえよう。後のテオドシウス帝によるキリスト教信仰の強制がはじまるまで、この都市にはギリシアやアフリカなどのさまざまな要素が集められ、融合していたのである。

マケドニアなどの東側の地域からこの大都市を目指す場合には、アドリア海に面した南イタリアの海港に上陸し、そこから北上する **D** 街道を利用することになる。この街道は、石で舗装されていたローマ最古の道路であった。後に道路は延長され、帝国の様々な地方にまで及ぶことになる。このような街道は、人々の陸上での移動を円滑に進めたが、後には商業活動にも利用され、やがてはローマの制度や風俗を各地に伝え、広めていく役割を果たした。整備されたこの道の周辺部分には、水道橋や陸橋なども建設された。これは当時の土木建築の水準の高さを示している。やがてこの道からローマの城壁の中へ入ると、そこには多くの凱旋門がそびえ、皇帝たちによって建造された豪華な浴場やあるいは劇場などがいくつも目に入ってくる。これらの建物の間を進むと、今度はティトラス帝の時代に完成された **E** と呼ばれる 競技場や肉体を鍛えるための運動場などが巨大な姿をあらわし、見る者の目を奪う。

そしてようやく最後に見えるのが、やや高まった場所に建てられた皇帝や元老院が政治を執り行う役所などの諸機関である。こうした政庁、娯楽施設などが集まり、市民の生活の中心となっていたのがフォルムであった。そしてこのような重要な場所でひととき目立っていたのが、さきに述べた神殿の風景である。人々はこの聖地からやや離れた場所に、たくさんの市場を開いていた。そこには季節風などを利用した貿易によって、遠くの国々から運ばれた異郷の産物（アジアの香辛料やスペインのオリーブなど）が並べられ、巨大都市の食卓を飾っていたのである。

とくに五賢帝の時代には、ローマの「黄金時代」といわれるほどに長く平和が続いた。この賢帝のなかで二番目に登場した皇帝は、ドナウ川の向こう岸にあるダキアを

属州とした。こうしてローマの領土は、最大版図を実現するに至ったのである。彼は属州出身の初の皇帝であったが、このように人材を多くの地域からはば広く登用する姿勢も、この帝国の特徴の一つである。

メソポタミアなどを征服する対外積極策から内政重視へと大きく舵をきり、ブリタニアに長城を築き、カピトリアヌスの丘に後の大学教育の基礎となるアテナエウムを創設した  皇帝のような人物もいる。彼は帝国各地を訪問し、言語・文化・習慣の異なる属州の発展に努めた。またこの皇帝の時代に法典が編纂され、やがて後に成立する「ローマ法大全」に大きな影響を与えることになる。

【設問Ⅰ】 上記の文章の  ～  内に入るもっとも適当な語句を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～④の語句をすべて用いて、「ボックス=ロマーナ」といわれたローマの平和と繁栄が、約200年間にわたり続いたその理由を100字以内で記述解答用紙に記述しなさい。なお①～④の語句には、下線を引くこと。

## II 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

唐の文化は、新羅、日本、渤海、吐蕃などの東アジア諸国に大きな影響を与え、広大な文化圏が成立した。以下の文章は、唐朝が滅亡した後の東アジア世界の変化についての記述である。

唐代の中ごろ(8世紀の中ごろ)から中国社会は少しずつ変化をはじめ、唐朝の滅亡、五代の過渡期を経て、宋朝が成立すると、その変化は決定的になります。それは一口にいうと、門閥貴族政治から独裁君主政治へ、土地経済から商業や都市の発展する社会への変化といえましょう。

東アジアの変化は、主として中国社会の変化にともなった点があるといえます。すなわち唐が諸民族を包摂、支配する世界帝国でありましたので、その解体にともない、諸民族社会にもまた変化が起こったといえましょう。すなわちそれまでの北方民族の鮮卑や突厥やウイグル等が、おおむね部族連合国家であり、中国との関係でいえば、北方のモンゴル高原等において単に国境紛争を起こしたり、または北方の郷里の地を離れて中国に入って、中国文化に同化してしまったのにたいし、この時期以降興った遼や金・元・清等の国家は、比較的君主権が強力で、北方の郷里の地と中国の領土とを併せもって支配したという特徴をもちます。一方、この時期に対応する漢民族の宋(北宋・南宋)は、唐までの貴族勢力の没落に対応して、やはり君主権力の強固な社会になっていましたので、北方民族は中国支配の体制をつくりやすかったといえるでしょう。

なおこの時期の変化は東アジア世界の周辺にも及び、朝鮮半島では新羅の貴族政治が衰えて、地方豪族の政権が起こり、それらは高麗王朝に統合されました。高麗ではやがて武臣政権がはじまるのですが、日本でも平安時代までの貴族政治が衰えて、武士の政権が建てられます。また南方の雲南でも大理が起こり、ベトナムは唐代まで長く中国の支配をうけていましたが、この時期にようやく独立を達成します。

さらにこの時期の国際的な変化としては、西方からアラブ・イスラームの勢力が伸張してきて、東アジアの情勢に影響をあたえたということを指摘できるだろうと思います。すなわち従来北アジアの遊牧民は、突厥が中央アジアのイラン国境まで支配し、

それを征服した唐もこの地方まで**羈縻州**をおいたのにたいし、751年、唐はタラス川の戦いでアラブの軍に敗れ、アラブの勢力はソグディアナを**席卷**しました。

したがって突厥の後に北アジアを支配したウイグルは、突厥のように西方に領土をのぼすことはできませんでしたが、840年ごろ、キルギス族の襲撃で国が崩壊してから、**匈奴**以来北アジア遊牧民の本拠であったモンゴル高原に強力な勢力はしばらく生まれず、それが同じ北アジアでも東方にあった遼や金を台頭させる遠因になったと思われます。一方、現在の**新疆**地方に遷ったウイグルが、西方から伝わってきたイスラーム教に改宗するにおよんで、イスラームの勢力は中国内部にまで広がるようになります。

またイスラーム教徒は貿易商人として、各地で活動をはじめます。それは南アジアを経て、中国南部の海港にもやってきて居留地をつくりました。その居留地では中国政府の羈縻政策によって居留民の自治が許されて、主として貿易活動に従事しました。中国人の商業活動もこの時期から盛んになり、それはイスラーム商人の活動と相まって、この時期以後の東アジアの商業・貿易を活発にすることになります。

(堀敏一「東アジア世界の歴史」(講談社学術文庫)、一部改変した。)

【設問1】 上記文章の下線部(A)～(E)に関する以下の問に答えなさい。答えは記述解答题用紙に記入しなさい。

問1 下線部(A)に関連し、新羅で行われた氏族的身分制度で、身分を五段階に区別し、官職から生活様式まであらゆることを規制したものを何制というか。

問2 下線部(B)に関連し、中国江西省北部の**窯業**都市で、宋代以降とくに発達し、明清時代には海外にも盛んに輸出されて世界的に有名になった陶磁器生産地を何というか。

問3 下線部(C)に関連し、中国の皇帝が、周辺諸国の支配者との間で儒教的な中華思想に基づく形式上の君臣関係を結んで形成された国際秩序を何体制と呼ぶか。

問4 下線部(D)に関連し、チベット=ビルマ系のロロ族が建国し、8世紀前半に雲南地方を統一した王国を何というか。

問5 下線部(E)に関連し、10世紀中ごろから中央アジアを支配したトルコ系最初のイスラーム王朝で、11世紀中ごろパミール高原を境に東西に分裂し、のちに西遼の支配下に入った王朝を何というか。

【設問II】 波線部①～⑥に関する以下の問の答えを、マーク解答用紙にマークしなさい。

問1 波線部①に関連し、阿倍仲麻呂は日本から留学生として入唐し、後に皇帝に重用され安南節度使としても治績をあげた。彼が交友した中国の詩人を2人選びなさい。

- (a) 王維
- (b) 白居易
- (c) 陶淵明 (陶潜)
- (d) 李白
- (e) 朱熹
- (f) 蘇軾

問2 波線部②に関連し、渤海に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 大祚榮が建国し、中国東北地方の東部を中心に朝鮮北部などを支配した。はじめは震国と称し、唐と修好して渤海郡王に封じられたので、以後国号を渤海と称した。
- (b) 都の上京竜泉府は唐の長安の都城制にならって建設された。現在の中国黒竜江省に位置している。
- (c) 渤海は唐に朝貢してその制度・文物を摂取した。また仏教も盛んで、「海東の盛国」と呼ばれた。
- (d) 渤海は日本にも頻繁に使節を派遣して友好関係にあった。



問3 波線部③に関連し、吐蕃に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 吐蕃は7世紀から9世紀にチベットに栄えた王朝で、都のラサはチベットの宗教・政治・経済・文化の中心地であった。
- (b) 吐蕃は唐と太宗以来親交を続けたが、やがて対立し、安史の乱に乗じて一時長安にも侵入した。
- (c) 吐蕃の文化はインド文化の影響が強く、インド系の文字をもとにしてチベット文字が作成された。
- (d) チベット仏教(ラマ教)は8～9世紀にチベットで成立した大乘仏教である。14世紀にはソンツェン=ガンボが従来のチベット仏教を改革し、黄帽派(黄教)を開いた。

問4 波線部④に関連し、高麗に関する以下の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。正しいものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 都は慶州で、新羅末の動乱で台頭した王建(太祖)が朝鮮中部に建てた国である。
- (b) 兩班は高麗・朝鮮王朝(李朝)の特権身分の官僚階級である。文班と武班があったのが名称の由来となった。
- (c) 高麗では国家の保護のもと仏教が盛んで、高麗版大蔵経は、世界最古の金属活字印刷で刊行された大蔵経である。
- (d) 高麗は13世紀にはモンゴルの侵入を受けて服属した。14世紀には倭寇の侵入に苦しみ、朝鮮王朝(李朝)の創始者李元昊によって滅ぼされた。

問5 波線部⑤に関連し、ベトナムの王朝に関する以下の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) ベトナムは千年にわたり中国の支配を受けてきたが、11世紀の初め、李公蘊により大越国(李朝)が建てられた。首都は昇竜(現ハノイ)。ベトナム北部最初の長期政権で、宋軍を撃退して独立を確保した。
- (b) 大越国(李朝)では漢字をもとに体系化された字喃(チュノム)が広く

- 使用された。字喃(チュノム)は19世紀にフランスが進出すると衰えた。
- (c) ベトナム南部にあったチャム人の王国チャンパーは、2～7世紀頃中国名で林邑と呼ばれた。
- (d) 李朝の外戚である陳氏が13世紀に建てた陳朝は、中国風の行政制度や科挙を導入し、仏教文化が発達した。

問6 波線部⑥に関連し、唐宋の時期の中国商人とイスラーム教徒の商人(ムスリム商人)の活動に関する以下の記述について、正しいものを1つ選びなさい。正しいものがなければ(e)を選びなさい。

- (a) 市舶司は海上貿易全般の管理を行う役所で、唐の玄宗時代の8世紀に、泉州に初めておかれた。
- (b) 唐代以降、ムスリム商人の活躍で東西交通の主要ルートとなった「海の道」は、9世紀ごろから中国の陶磁器が海路を通じて大量に運ばれるようになり、「陶磁の道」とも呼ばれた。
- (c) 中国商人が海洋交易で主として使用したのは、中国で開発された丈夫な木造の帆船であるダウ船であった。
- (d) 宋以降海上貿易が急速に活発化し、杭州(臨安)などにも市舶司がおかれた。杭州(臨安)は浙江省の港市で南宋の都ともなり、その繁栄ぶりは「清明上河図」という絵巻物にも描かれている。

【設問III】 二重下線部⑦に関する以下の問の答えを、マーク解答用紙にマークしなさい。

問 漢民族以外の民族が建てたこれら4王朝に関する以下の文について、遼について述べたものであれば(a)、金について述べたものであれば(b)、元について述べたものであれば(c)、清について述べたものであれば(d)、いずれの王朝にもあてはまらないものは(e)を、それぞれマークしなさい。

- (1) 藩部とは、この王朝に支配された外モンゴル・新疆・チベット・青海の総称である。中央官庁である理藩院から派遣された大臣の監督を受けたが大幅な自治が認められた。

- (2) この王朝では朝貢貿易とは別に民間の私貿易が盛んになり、特に日本の平氏政権がすすめた貿易によって日本に書籍や銅銭が輸入され、日本の文化と経済に大きな影響を与えた。
- (3) この王朝では漢族の士大夫を冷遇し、当初科挙を中止したが、中国文化に理解を示した第4代皇帝の仁宗の時代に復活した。
- (4) この王朝では六部など重要な役職の定員を偶数とし、満州人と漢人を同数任命する満漢併用制という方策がとられた。
- (5) この王朝は、契丹族の耶律阿保機が建国した。二重統治体制を実施し、契丹人などの遊牧民に対しては部族制で統治する官庁を設け、漢人などの定着農耕民に対しては中国的な州県制で統治した。
- (6) この王朝の支配下で成立した全真教は道教の一派で、開祖は王重陽である。その中で説かれている内容は、禪宗の影響が色濃くみられる。

Ⅲ 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

メソポタミアとともに最も早く文明がおこったエジプトでは、ナイル川の治水のために強力な指導者が必要であり、前3000年ころにいち早く統一国家が形成された。古王国時代には巨大なピラミッドが築かれ、王の絶大な権力が誇示された。

遊牧民であったヘブライ人は、前1500年ころパレスチナに定住し、その一部はエジプトに移住した。しかし、新王国の圧政に苦しみ、「出エジプト記」によると前13世紀に指導者  に率いられてパレスチナに脱出した。その途上、シナイ山において、神ヤハウェとの契約が結ばれ、唯一神信仰の出発点になったとされる。

マケドニアのアレクサンドロス大王は、前334年東方遠征に出発し、エジプトを征服後、アケメネス朝ペルシアを滅ぼし、インド西北部にまでいたり、大帝国を築いた。彼の死後、領土は、アンティゴノス朝マケドニア、セレウコス朝シリア、 朝エジプトなどに分裂した。エジプトのアレクサンドリアは経済・文化の中心都市として栄えた。しかし、女王クレオパトラがローマのアントニウスと組み、オクタヴィアヌスに対抗して、アクティウムの海戦に敗れたため、この王朝は滅び、エジプトはローマの属州となった。

キリスト教は4世紀にはローマ帝国全土に広がった。エジプトやシリアでは、イエスに神性のみを認める単性論の信奉者が多かった。451年のカルケドン公会議は、これを異端とするとともに、ニケーア公会議で正統とされた  が説いた説を整えた。これによって、神とイエスと聖霊の三者を不可分とする三位一体説が確立した。

北アフリカからペルシアに及ぶ大帝国を築き、 の治世下に全盛を迎えたアッバース朝は、彼の死後、求心力を失い、帝国内に独立の王国が次々に成立した。10世紀初め北アフリカにおこったファティマ朝は、969年にエジプトを征服して、新都カイロを建設した。

ファティマ朝を倒して、 朝を樹立したサラーフ=アッディーン(サラディン)は1187年に、十字軍によって支配されていた聖地エルサレムを奪回した。これに対して聖地回復を目指す第3回十字軍が組織されたが、サラーフ=アッディーンはこれを迎え撃ち、激しい戦いの後に和平協定を結び、キリスト教徒のエルサレム巡礼を認めて、聖地を守った。

13世紀末に小アジア西北部に建設されたオスマン朝は次第に強大となり、メフメト2世が、1453年にコンスタンティノープルを陥れ、ビザンツ帝国を滅ぼした。その後、スルタン **F** は、1517年にマムルーク朝を滅ぼしてエジプトも支配下に置いた。エジプトは州とされ、オスマン帝国内で重要な地位を占めた。

1798年ナポレオンは、イギリスとインドの連絡を断つ目的で、エジプトを攻め、カイロ、アレクサンドリア、ナイル・デルタを支配下に置いたが、イギリス軍とオスマン軍に敗れ、1801年にフランス占領は終わった。その後の混乱に乗じて1805年にムハンマド=アリーがエジプトの支配者となり、エジプトの近代化を強力に推し進めた。

⑥ 地中海と紅海を結ぶスエズ運河がフランス人 **G** によって1859年に着工され、1869年に開通した。運河建設を含む急激な近代化と戦争はエジプトを財政難に陥れ、エジプト政府は、1875年に、インドへの道を確保しようとするイギリスにスエズ運河会社の株式を売却した。結局、1876年にエジプト財政は破綻し、イギリスとフランスの管理下に置かれた。このような外国支配に抗して、1881-82年に反乱が起った。これに対して、イギリスは単独出兵して鎮圧し、エジプトを事実上保護下に置いた。エジプトは、1922年エジプト王国成立、1936年エジプト=イギリス条約によってようやく主権を回復した。

1945年3月、エジプトなどアラブ7カ国はアラブ連盟(アラブ諸国連盟)を結成し、アラブの統一行動を目指した。1948年のイスラエル建国宣言に対してアラブ連盟は反対し、イスラエルと戦争になったが、アラブ諸国軍は敗北しイスラエルが独立を確保した。

1953年エジプトは共和国となり、積極的中立策をとらえた **H** 大統領は、アラブ民族主義の中心的指導者となった。その後を継いだ **I** 大統領はイスラエルとの和解に転じ、1979年エジプト=イスラエル平和条約を締結したが、1981年イスラーム過激派によって暗殺された。その後の非常事態令の下で、大統領となった **J** は、イスラエルとの単独和平を理由に除名されたアラブ連盟への復帰を実現するなどの業績も上げた。しかし、非常事態令を解除することなく30年間大統領の地位に居座り続け、2011年2月11日チュニジアから波及した民衆蜂起によって退陣を余儀なくされたのである。

【設問Ⅰ】 上記の文章の **A** ～ **G** 内に入るもっとも適当な語句を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 上記の文章の **H** , **I** , **J** に入る大統領の名前を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅲ】 下線部①～⑦に関する以下の問の答えを、マーク解答用紙にマークしなさい。

問 1 下線部①について、古代エジプトに関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) 古王国時代、王ファラオは太陽神ラーの子として崇められた。
- (b) 中王国時代の政治の中心地は上エジプトのテーベであった。
- (c) 中王国の末期に遊牧民のヒッタイトが侵入し、国内が混乱した。
- (d) 新王国のアメンホテプ4世(イクナートン)は、唯一神アトン信仰を強制した。

問 2 下線部②について、アケメネス朝ペルシアに関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) グレイオス1世はギリシアの諸ポリスとの間に戦争を始めた。
- (b) グレイオス1世の治下、エーゲ海北岸からインダス川にいたる大帝國となった。
- (c) エジプトはカンピュセス2世によって征服された。
- (d) カンピュセス2世は、王都ベルセボリスを建設した。

問 3 下線部③について、ローマに関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ポンペイウス、カエサル、クラッススが元老院、門閥に対抗した政治を第1回三頭政治と呼ぶ。
- (b) カエサルはガリア遠征の成功によって指導権を獲得し、ディクタトルに

就任した。

- (c) アントニウス、オクタヴィアヌス、レピドゥスが共和派に対抗して行った政治を第2回三頭政治と呼ぶ。
- (d) オクタヴィアヌスは元老院からアウグストゥスの称号を与えられ、事実上の皇帝となった。

問4 下線部④について、ファーティマ朝に関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) ファーティマ朝はスンナ派で最も過激な一派によってたてられた。
- (b) ファーティマ朝では建国当初から君主がカリフの称号を用いた。
- (c) ファーティマ朝以前に、ウマイヤ朝の下でカリフは世襲化されていた。
- (d) ファーティマ朝に対抗して、後ウマイヤ朝の君主もカリフの称号を用いた。

問5 下線部⑤について、十字軍に関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) 第1回十字軍は聖地奪回の目的を果たし、イェルサレム王国を建設した。
- (b) 第3回十字軍にはドイツ皇帝、フランス国王、イギリス国王が参加した。
- (c) 第4回十字軍はヴェネツィア商人の要求で、エジプトを攻撃目標とした。
- (d) 第6回十字軍は海路エジプトを攻撃したが敗退した。

問6 下線部⑥について、ムハンマド=アリーに関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) オスマン帝国にエジプト総督の地位を認めさせた。
- (b) 旧勢力のマムルークを一掃して、徴兵制度を確立した。
- (c) 2度にわたってオスマン帝国とたたかい勝利をおさめた。
- (d) ロンドン4国条約でエジプト総督の世襲権を認められた。

問7 下線部⑦について、1881～82年の反乱に関する記述で誤っているものを

1つ選びなさい。なお、該当するものがない場合には(e)を選びなさい。

- (a) この反乱は指導者の名前からウラービーの反乱と呼ばれた。
- (b) この反乱はナギブを団長とする自由将校団に率いられた。
- (c) この反乱は「エジプト人のためのエジプト」を掲げて戦った。
- (d) この反乱はエジプトにおいて立憲制を実現しようとした。

【設問IV】 文中の波線部、アラブ連盟（アラブ諸国連盟）に関して、エジプト以外の結成当初のアラブ連盟参加国を4つ、記述解答用紙に記入しなさい。









